

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 七尾街づくりセンター株式会社

上位関連計画にみる地域の将来
 ○パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22~24%、
 2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：5.2万人、将来：4.6万人（2030年）、3.6万人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
 ○地域の総合計画に示された将来目標 現状：5.2万人→目標：4.7万人（2030年）、4.2万人（2040年）
 ○市内で里山里海の保全活用に取り組む新たな団体数：7団体（平成26年度）→17団体（平成31年度）

②具体的なアクション
 地域の担い手育成事業（Nプランニング・中島地区）
 ローカルエコツーリズムの新商品開発（のとじま島おこし団、御祓川）
 インバウンド向けの情報発信（ななお・なかのとDMO）
 チャレンジを促す「てみるフェス」（事務局）
 創業・事業承継支援、新規事業開発（事務局）
 空き家の利活用（事務局）

③短期目標（②具体的なアクションのKPI）

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	地域の取り組み状況	草刈りや清掃活動の参加人数	800	1,000		人
	地域の取り組み状況	空き家の利活用数	0	3		軒
経済	地域の取り組み状況	てみるフェスのプログラム数	0	50		件
	新たな財源を作る	創業・事業承継件数	10	12		件
	財源が充実する	ふるさと納税額	300	400		百万
	地域外から稼いでくる	スポーツ合宿宿泊数	21,000	33,000		人
	地域の取り組み状況	新規事業の数	2	5		件
社会	市民の関心が高まる・認知度が高まる	メディア掲載件数	20	30		件
	郷土への愛着・地域の誇り	祭りの参加人数	10	12		万人
	行動が変わる	ローカルエコツーリズムの参加者数	20	40		人
	関係人口	FBなどSNS投稿数	150	250		件
	地域の取り組み状況	副業兼業などの参加人数	0	5		人

①目指すべき姿
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ 能登の里山里海と共に豊かな暮らしができる「小さな世界都市・七尾」

- 世界農業遺産に認定された能登の里山里海とその豊かな地域資源を活かした一次産業とその営み。
- 世界無形文化遺産に認定された青柏祭を代表される祭り文化。

→ 上記を後世に残していくためには、関わり続ける人が必須である。そのコア人材は地域で住み続ける働き続ける場が必要である。面白い経営者がいなければ、魅力ある会社にならず、若者が働きたい地域ではなくなる。若者が住み続けたいまちにするためにも地域全体を楽しく面白くする必要がある。面白くするためには、環境・経済・社会の様々な側面で、新しいチャレンジが必要であり、新しいチャレンジがなければ、地域はこのまま衰退していく一方であるため、地域のプラットフォームとして、チャレンジの根源である人や組織をサポートする。

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	自然共生社会	耕作放棄地面積	18	18	2030年	18	ha
	自然共生社会	環境保全型農業の面積	40	130	2030年	700	ha
	循環型社会	危険空き家の数	16	20	2030年	25	軒
経済	地域外から稼いでくる	域外からの観光客数	90	100	2030年	120	万人
	地域外から稼いでくる	域外への地元産品の販売額	0	100	2030年	4,000	万円
	新たな財源をつくる	創業・事業承継件数	10	12	2030年	20	件
	財源が充実する	ふるさと納税額	300	400	2030年	600	百万
	地域外から稼いでくる	スポーツ合宿宿泊数	21,000	33,000	2030年	45,000	人
社会	市民の関心が高まる・認知度が高まる	メディア掲載件数	20	30	2030年	50	件
	郷土への愛着・地域の誇り	祭りの参加人数	10	12	2030年	12	万人
	行動が変わる	ローカルエコツーリズムの参加者数	15	40	2030年	250	人
	関係人口	副業兼業などの参加人数	0	5	2030年	50	人
	人口減少率の下げ止まり	UJターン数	30	70	2030年	120	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

基本的なベースとして、①ニュースを作る。 ②知名度、好感度が上がる。 ③人材が集まる。 という3つの循環になるかと考えている。
 新しいチャレンジを始めることで、ニュースを作る。それが、観光やローカルエコツーリズム、ふるさと納税などで関係人口を増やすことにつながり、その関係性を深めることによって、UJターンの移住者を増やす。それが、創業や就業、副業兼業、プロボノ、ボランティアにつながり、特に一次産業周りでの新たなチャレンジへと循環する。また雇用や副業兼業、ボランティアなど関わる人を増やすことで、耕作放棄地の面積の削減など、環境、経済、社会面への指標に影響していく。